

# 梅の里

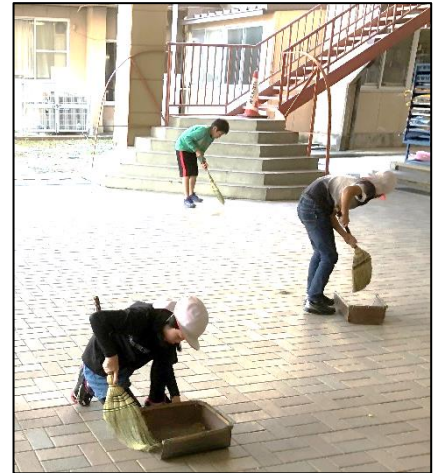


日常生活の中に見られる

## 宮小家族の姿

自分を好きになる  
他人(ひと)を好きになる  
宮田を好きになる

昇降口・ピロティは風の吹きだまりになっていて、落ち葉や砂がたまりやすいです。一心不乱に掃除をする5年生。その姿に驚き、掃除後に聞いてみました。  
「どんなことを考えて掃除をしていたの？」  
「・・・わからない。一生懸命やっていたから、何も考えていないかも」  
この答えにもびっくりしました。一生懸命掃除に打ち込むことができ、自分に自信を持つ⇒自分を好きになることにつながる光景でした。



ある日の下駄箱掃除。女の子が砂がいっぱいついた靴を見つけ、外ではらおうとしたところ、ごみを集めていたちりとりを蹴ってしまいました。でも本人は気づいていません。集めていた男の子2人は顔を見合わせます。でも何も言わずに2人で頂きました。そして黙って散らかったごみを集め始めました。ふと見ると6年生が1年生の掃除の見本になるかのように、一生懸命掃除に打ち込んでいました。1年生はいつも6年生の姿をちらちら見てマネするように掃除をしていました。「何で蹴るの!」という気持ちもあったことでしょう。でも6年生の姿を見て、「一生懸命やっていて気づかなかったんだな」「自分たちで片づければいいんだな」と判断したのかもしれませんが。6年生を真似する=他人を好きになるきっかけの場面だったように思います。

「行く!」  
「私も!」  
結局七人も付き添いが...  
嬉しかったでしょうね。  
人に感謝する(他人を好きになる)場面でした。

休み時間にケガをしてしまった子がいました。教室でしくしく泣いています。  
「どうしたの?」  
すぐに声をかける子がいます。  
「先生、〇〇さんがけがしちゃったんだって。どうすればいい?」  
「保健室に行こうか。一人でできる?」  
返事ができない子の様子を見て  
「一緒に行ってあげれる?きつと心強いよ」  
「行く!」



よつば学年(4年生)が商店街のコンサートを実施しました。商店街のことを調べ、その現状を知りました。「商店街を元気にしたい」というキーワードが4年生に合言葉になり、三浦木工さんのご協力を得て、手作りの楽器を作成し、その楽器を使ったコンサートを行いました。

午前中に降り続ける雨。昼休みから掃除の時間にかけて、ステージとなった津島神社の水たまりをスポンジで拭きとってくれた5年生。終了後、太鼓やブルーシートを片づけていると、下校途中だったのに運ぶのを手伝ってくれた子たち。

多くの人に支えられたコンサートでした。そして何よりも宮田のためにできることは何かを考え、当日の演出やステージを自分たちで考えたよつば学年。宮田を好きになる素敵な午後のひと時でした。





1年生 遠足 10/16  
宮田村の秋をいっぱいを感じながら元気に行ってきました。



2年生 電車遠足 10/30  
初めて電車に乗る子も多く、出発前の駅のホームで、すでにワクワク感が最高潮になりました。



3年生 りんご収穫 10/26  
今年も榎屋さんにお世話になりました。名前入りのりんごを収穫し、笑顔いっぱいの3年生でした。



5年生 脱穀 10/16  
コロナ禍でもできる収穫祭を参観日に計画しています。半年間お米と向き合ってきた5年生でした。

## お兄さん・お姉さん いってらっしゃい! ~いつもありがとう~

6年生が修学旅行に行く前に、1年生から「お守り」がプレゼントされました。例年ならば、もっともっとたくさん交流をしているはずの1年生と6年生。今年は密の状態にならないように活動を制限しています。限られた活動の中でも、6年生が1年生をかわいがる気持ち、1年生が6年生を慕う気持ちは例年と変わりません。「いつもありがとう」の気持ちでお守りを渡している光景、ニコニコ顔で受け取って頭をなでたり抱っこしたりする光景を見ると、あたたかい家族の光景のようで、じ〜んとしてしまいます。(6年生の修学旅行の様子は次項で紹介します)

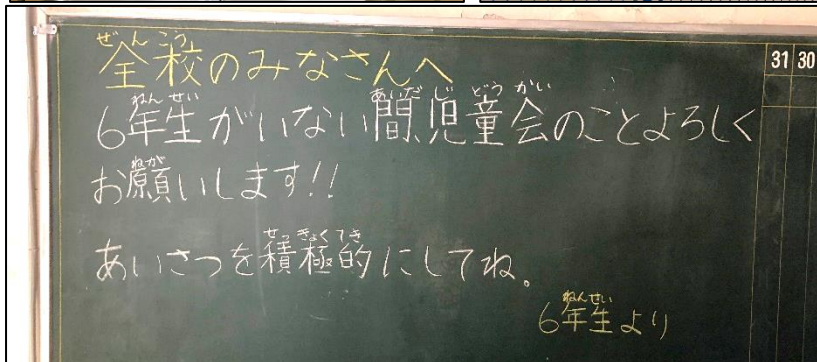


お守りの中には、1年生が一生懸命書いたお手紙が入っています。



実際に「見て」「聞いて」「感じて」「味わって」・・・だからこそわかったこと

## 6年生修学旅行～群馬県・栃木県～



に全てが込められていると思います。事前に学習したことを実際に見て、その土地の雰囲気を感じたことは、何よりの経験になったと思います。

出発前の早朝、児童会の連絡黒板に「全校のみなさんへ。6年生がいない間、児童会のことをよろしくおねがいします。あいさつを積極的にしてね」と心を込めてメッセージを書いている姿を目にしました。6年生がいない間、4、5年生は児童会の当番活動を試行錯誤しながら頑張り、「6年生ってすごい」と6年生の存在の大きさに改めて気づく子もいました。

6年生のみなさんが卒業するカウントダウンが始まっています。宮小家族の兄・姉としてもう少し全校をリードしてください。



昨日のマラソン大会はすばらしい大会になりました。全員が自分の限界に挑戦することで自分のよさを再発見し、つらい時に励ましてくれる友達の優しさに触れ、沿道で応援してくれる地域の方の温かさを感じ、「自分を好きになる、他人を好きになる、宮田を好きになる」機会になったと思います。  
皆さんの頑張りに大きな拍手です。

今日は「思いやりの横断歩道」ということについてお話します。

皆さんは登下校でいくつの横断歩道を渡っていますか。渡らない人はほとんどいないのではないのでしょうか。そんななかには、信号機のある横断歩道とない横断歩道がありますね。信号機のある横断歩道では、車は信号に従って止まります。では、信号機のない横断歩道ではどうでしょうか。その時の車はどうか思い出してください。

自動車会社が調べたところによると、信号のない横断歩道で渡りたい人がいる場合に、止まる車は、今から2年前は全国平均ではわずかに 8.6%、長野県はダントツの全国一位の 58.6%だったそうです。今年、全国平均で 21.3%、長野県はやはりダントツの全国一位で 72.4%だそうです。

私が宮田小学校に勤めるようになって、宮田村を車で走っていて一番感じたことは、「信号のない横断歩道で、渡ろうとしている人がいると車は必ず止まっている」、ということでした。宮田村は 100%に近い車が止まっているという感覚です。そのくらい、よく止まってくれます。皆さんの感じ方はどうでしょうか。

では、なぜこれほど長野県・宮田村では車が止まってくれるのでしょうか。

一つは、横断歩道を渡ろうとする人が手を挙げていることだと思います。皆さんも横断歩道を渡るときに手を挙げていますね。先日、諏訪湖スタジアムの近くを通った時、野球部の高校生が手を挙げて「渡りますよ」と自分の気持ちを示していました。私の前を走る車は、当然と言っていいと思いますが止まりました。この時、止まった車の運転手もそうですが、それ以上に高校生の思いやりを感じました。自分のやりたいことをきちんと示す、この時は「横断歩道を渡りますよ」ということですが、そのことは、相手の行動をやりやすくすることになり、この時は、運転手が止まろうと思うことです、それは、相手を思いやることと同じだと思いました。

二つ目は、運転手を「止まってよかった」という気持ちにさせているということです。それはあいさつ・感謝の気持ちです。皆さんも、止まってくれた方に対して振り返って頭をさげて「ありがとう」の気持ちを表していますね。諏訪で出会った高校生も同じように、かぶっていた帽子をとって「ありがとうございました」という気持ちを込めてお辞儀をしていました。車は止まらなければいけないのですが、それでもあいさつしてくれれば「よかった、次も止まろう」という気持ちになります。

学校生活でも同じことがいえると思います。

自分がやりたいこと、手伝ってほしいことをはっきりと示せば、必ず誰かが助けてくれます。そうすれば「ありがとう」「どういたしまして」のあいさつが交わされ、感謝の気持ちが伝わります。そうすることで、一層仲良しになれるはずです。

なかよし月間も半分が過ぎましたが、自分のやりたいことをきちんと示す、そしてあいさつを交わし感謝の気持ちを伝える、これを実践すれで、宮小家族として楽しい毎日が送れること間違いありません。  
「自分を好きになる、他人を好きになる、宮田を好きになる」なかよし月間にしましょう。

最後に、今、宮田では横断歩道で「車は止まってくれる」と言いましたが、絶対ではありません。歩行者に気づかずに通り過ぎてしまう車もあります。必ず自分の目と耳で、車が止まってくれたことを確かめて安全に横断してください。

信号機のない横断歩道における車の一時停止率		
年	全国平均	長野県
2016年(平成28年)	7.6%	
2017年(平成29年)	8.5%	
2018年(平成30年)	8.6%	58.6%
2019年(令和元年)	17.1%	68.6%
2020年(令和2年)	21.3%	72.4%



新型コロナウイルスの感染が広がっています。長野県内の警戒レベルも上がっていることから、明日予定されていた English Challenge Day・6年生パラリンピック学習会・4年生祇園祭学習会・3年生消防署見学・地域食材の日を延期または中止といたしました。来週の参観日については、直前の連絡となりますが、週明けの状況を見て判断させていただきます。この週末は、不要不急の外出を控え、それぞれのご家庭で感染防止対策をお願いします。